

安倍内閣総理大臣ご挨拶（ビデオ）

本日は、世界各地から多くの皆様にお集まりいただき、3回目を迎える「IHRA 国際フォーラム 2018」が盛大に開催されますこと、心からお慶び申し上げます。

高速鉄道、日本では「新幹線」と呼びますが、この技術は日本の発展を願った人々の努力により結実しました。日本の鉄道技術は、19世紀後半、私の地元、長州出身の井上 勝たちが英国で学び、持ち帰りました。日本が鎖国を解き、近代化に歩みだした頃です。

それから100年の時を経た1964年、まさに東京オリンピックが開催された年に東海道新幹線が開業しました。まだ決して豊かではなかった当時の日本において、時速210kmで東京と大阪の二大都市を結んだ新幹線は、まさに「夢の超特急」であり、未来への希望でした。

ここ九州の地にも、2011年に九州新幹線が全線開業しました。熊本地震や九州北部豪雨など、幾度も災害に見舞われましたが、過去の災害から学び、強靱性を徹底して追求した新幹線は、復旧も早く、基盤インフラとして力強く地域の復興に貢献しています。

新幹線の誕生から50年余り、そのネットワークは今や全国3千キロに及び、年間4億人を輸送しながら、乗客の死亡事故はゼロ、また、最短3分間隔で運行しながら定時性を確保しています。

き技術革新は今も続いており、時速500kmの次世代の 超高速

鉄道、「超電導リニア」の建設も着々と進んでいます。

高速鉄道は、今、社会に大きな変化をもたらす輸送手段として世界中から熱い期待が寄せられています。

昨年9月、私は「インド高速鉄道起工式典」に参加し、モディ首相の「インド人に夢を与える」という熱意や、インド国民の高速鉄道に対する期待を大いに肌で感じました。我が国の経済や国民生活の発展を支えてきた「新幹線」は、海を越え、インドの大地を駆け抜けます。我が国政府と企業は、その一日も早い実現を、一丸となって支援する決意です。

古より、中国大陸や朝鮮半島など海外との交流拠点として栄えた九州は、その後も、製鉄や造船など諸外国の発想や技術を取り入れて産業を育み、近代日本の黎明を告げた明治維新にも重要な役割を果たしました。

新しい時代を作ろうと柔軟な発想で変革に挑戦していった先人たちのように、ここ九州・福岡にて、自由に思索をめぐらせ、闊達な議論をしていただければと思います。

世界中から集った各国のリーダーの方々の中で、高速鉄道を社会に生かすための有意義な意見交換と情報共有が行われることを、心から期待し、私からの御挨拶といたします。